2001年（平成13年）2月18日（日曜日）　12版

MAINICHI 毎日新聞

現役もママも「メン、ドー」

アイスター杯　毎日レディース剣道大会

女性剣士一堂に

ズラリ整列した参加選手たち

愛好者にビッグな大会を

家庭生活と両立

長野・大町市少年剣道クラブチームの皆さん

「アイスター杯　毎日レディース剣道大会」は毎年、現役から主婦まで幅広い層の選手が一堂に集う。剣道を続ける理由は「学生時代からずっとやっていたから」「友人とスポーツを楽しむため」「子供の練習に付き添っているうち、おもしろそうだから始めたのがきっかけ」「美容と健康のため」……とさまざまだ。

B部門に出場した長野県の大町市少年剣道クラブチームは出場3回目にして初勝利を挙げた。さらにチームワークのよさを発揮して2回戦まで勝ち進んだ。家庭生活と剣道を両立させている選手の皆さんに話を聞いた。

先鋒で3段の多田奈穂美さん(38)は「高校時代からずっと剣道を続けています。休んだのは子供がおなかにいるときから、その子供の首が据わるまでの間だけでした」というほど熱心な剣士だ。練習のある日は子供を連れて1時間ほどかけて大町市にある道場まで通っている。剣道のお陰で体調がよく、風邪をひきにくい体質に変わったようだという。

中堅の久保田瑞子さん(45)は子供が剣道クラブに入ったのがきっかけ。道場の体育館で待っているうち、他のお母さんたちと「おもしろそうね」と竹刀を振ったのが第一歩だった。33歳のときのことである。夫も同じころに剣道を始めたといい、週1回はけいこに汗を流している。体を動かすことが好きなので、体力づくりのつもりというが、2段の腕前だ。

大将の二木むつみさん(44)は学生、教員時代を通して剣道を続けた6段の実力者。子育てなどでブランクがあったが、子供の新入学と共に再開した。「剣道をしていなかったら、気楽な日常に流されてしまったと思います」と話す。寒い時のけいこはつらい。体調の良くない時もある。剣道を続けるのは楽しいことばかりではない。だが、「しんどいけれど、みんな頑張っている」と思うから、自分自身も気持ちを正して道場に向かう。「剣道のお陰で人の気持ちが分かるようになったと思います」と、剣道を続ける覚悟を固めている。

A部門　決勝トーナメント

優勝：警視庁A

- 警視庁A　2 ― 0　警視庁B
- 東京消防庁A　1本 ― 1　静岡県剣道連盟選抜
- 決勝：警視庁A　3 ― 0　東京消防庁A

B部門　決勝トーナメント

優勝：東競武道館

- 東競武道館　1代 ― 1　友和会
- 越谷会　0 ― 2　警視庁
- 決勝：東競武道館　1本 ― 1　警視庁

A部門（35歳未満）若き戦いの跡

一宮剣道館（千葉）、SUNX B（愛知）、マルちゃん剣友会A（東京）、野木剣友会（栃木）、日通商事（東京）、長野みすず会（長野）、中野区剣道連盟（東京）、特別区（東京）、東芝情報機器A（東京）、高野道場（神奈川）、多摩永山剣友会（東京）、大塚家具A（東京）、東京消防庁剣道部会A（東京）、渋谷区剣道連盟B（東京）、至誠会（茨城）、川口婦人剣道クラブ（埼玉）、如月会（茨城）、大町市少年剣道クラブ（長野）、大平町少年剣友会（栃木）、宝塚剣精会（兵庫）、埼玉県剣道連盟古川（埼玉）、東日本電信電話東京支店（東京）

B部門（35歳以上）熟練の剣さばき

東競武道館（東京）、大平町少年剣友会（栃木）、港青年剣友会（東京）、川口婦人剣道クラブ（埼玉）、常磐台剣友会A（東京）、君津木更津剣道連盟（千葉）、西三徳宗武館（東京）、一宮剣道部（千葉）、埼玉県剣道連盟古川（埼玉）、大町市少年剣道クラブ（長野）、大山青少年剣友会A（東京）、清武館山口道場B（静岡）、足立区剣道連盟（東京）、京水館（宮崎）、剣武館加藤道場B（神奈川）、有心会（東京）、瀬田錬心館A（埼玉）、究剣館清水道場A（神奈川）、川口婦人剣道クラブA（埼玉）、高洲剣友会（千葉）、北区剣道連盟（東京）、三保正心館陸上道場A（神奈川）、全日本少年剣道錬成会館B（東京）、松風館道場C（千葉）、栃木県体育館剣道クラブA（栃木）、田武館（東京）